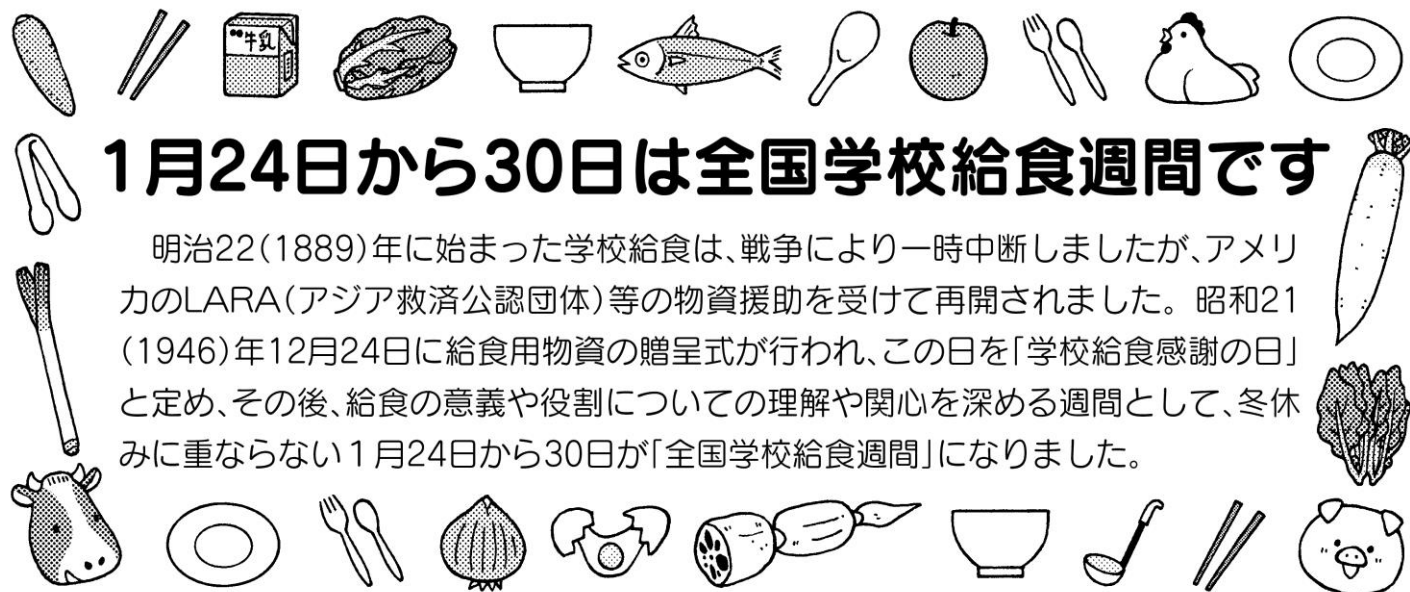


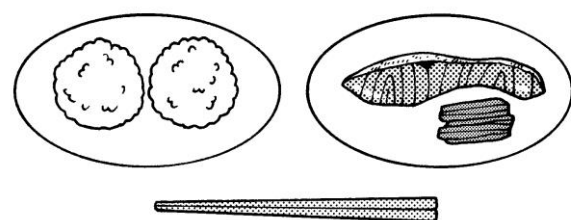
新年あけましておめでとうございます。冬休みは楽しく過ごせましたか。新しい年を迎えて、気持ちも新たに、この一年の目標を決めた人もいないでしょうか？今年もよく食べ、よく学び、よく身体を動かし、元気に楽しく一年を過ごしてほしいと思います。

毎年1月24日から30日までの1週間は、「全国学校給食週間」と定められています。これを機会に、学校給食の歴史や献立などを振り返って、給食のすばらしさを再認識してみましょう。



学校給食の始まり

学校給食は、明治22（1889）年、山形県の忠愛小学校で、家の貧しい子どもたちへ、無償で昼食を出したのが始まりとされています。当時の献立は塩さけ、おにぎり、漬物だったといわれています。それから全国各地に広まっていきました。



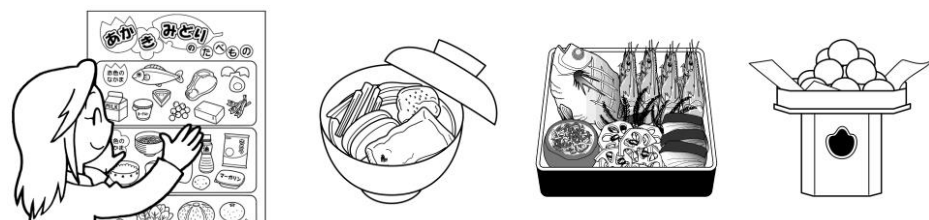
給食はおいしい生きた教材です

学校給食は、栄養バランスのとれた献立でみなさんの心身の成長を支えるだけではなく、体に必要な栄養や、バランスのとれた食生活の大切さ、感謝の心などを学ぶことができる「生きた教材」です。

おいしい給食を食べてしっかり
学びましょう。



学校給食は、みなさんが栄養の知識や食事のマナーを身につけたり、行事食や郷土食を通して、地域の文化や伝統を学んだりすることができる時間です。



大東市の学校給食の歴史

大東市では昭和8年に、住道北小学校の教諭で、栄養士（この当時はまだ国家資格ではありませんでした。）としても学ばれていた中島すえさんが、お昼ごはんのない児童のために、自宅で昼食を作ったのが始まりです。

昭和21年頃	住道北小学校に続き、他の小学校でもミルク（脱脂粉乳）給食が実施され始める。
昭和27年	「パン・ミルク（脱脂粉乳）・おかず」の完全給食が週3回実施。
昭和39年	給食が週4回実施となる。
昭和40年	脱脂粉乳が牛乳になる。（牛乳用冷蔵庫はなく、夏場は氷で保冷。）
昭和46年	給食が週5回実施となる。
昭和55年	米飯給食が自校炊飯で月1回導入される。
昭和57年	全校に牛乳保冷库（牛乳用冷蔵庫）設置。
昭和59年	米飯給食が週2回実施となる。
平成15年	米飯給食が週3回実施となる。
平成21年	米飯給食がさらに月1回増える。
平成25年9月	中学校給食スタート（米飯給食週4回）
令和7年4月	米飯給食が週4回実施となる。（小学校）



大東市の学校給食にも
長い歴史があるんだね



七草



せり、ナズナ（ぺんぺん草）、ゴギョウ（母子草）、はこべら（はこべ）、仏の座、スズナ（かぶ）、スズシロ（大根）の七種類を春の七草といいます。

スズナ（かぶ）、スズシロ（大根）以外は、水田の周りなどに生える雑草で、どれも身近なものです。

この七種類を刻んでおかゆに入れたものを「七草がゆ」と言い、正月が明けた七日の朝に食べます。

七草がゆは、もともと中国の風習だったものが、千年以上も前に日本に伝わってきたものです。江戸時代に、武士や庶民に広く広がり、江戸幕府でも、将軍をはじめ、すべての武士が七草がゆを食べていたそうです。

七草がゆには、

- ① 邪気を払い、万病を防ぐという縁起を担ぐ。
- ② おせち料理で疲れた胃腸を労わる。
- ③ 野菜の少ない冬場に不足しがちなビタミンなどの栄養素を補う。

などの意味が込められています。

